

平成 24 年度 海洋建築工学特別講義Ⅱ

「セイホ工業寄付講座」講義録ノート

～海から発想する未来「海と人間」～

担当

客員教授 木本正治

教授 近藤健雄

専任講師 山本和清

日本大学大学院 理工学研究科 海洋建築工学専攻

平成 24 年度セイホ工業寄付講座
日本大学大学院理工学研究科海洋建築工学専攻特別講義

第 7 回

「館山市における海辺のまちづくり」

千葉県館山市長

金丸謙一氏

平成 23 年 11 月 6 日 (火)



金丸 (途中より)……東京湾ということになります。ですから、この館山市というのは、太平洋と東京湾両方に位置している。そして、海岸線は 31.5km あるということで、半分が太平洋側、半分が東京湾側ということになります。館山市市制施行は非常に古くて、昭和 14 年 11 月、千葉県では 5 番目になります。そして、市の面積、市域は 110.21km² になります。人口は現在 5 万人弱ということです。館山市の位置関係が、千葉県の最南端にあるということ。それから、海に囲まれていて海岸線が非常に長い。半分が黒潮躍る男性的な海、太平洋にあって、そして半分が女性的な海といえますか、やさしい海、東京湾に面しているということです。

産業は、昔は水産業が非常に盛んでした。ところが、皆さんご存じのように水産業の漁獲量が減ってきていますし、また後継者の問題もあります。今、少なくなっています。また、農業も非常に気候が温暖ですので、いろいろなものが採れるということで盛んだったのですが、最近の後継者問題、それからなかなか生活するのに厳しいということから、衰退気味にあるということです。

産業別の就業人口は、農業、漁業を中心にした第 1 次産業が 7.7%、それから第 2 次産業、金属加工、いろいろな加工ですが、16.3%。第 3 次産業、サービス業になりますが、74.9%。つまり、第 3 次産業が中心の町であるということになります。

館山市も地方都市ですので、全国的に見て経済状況は低迷している。こういうなかで、どうやって町を活性化したらいいのか。そしてまた、海をどうやって活用していくなかで町の活性化に取り組んでいったらいいのかということに考えが至ったわけです。

今、館山市の持っているポテンシャルを最大限に生かして、外から人にここへ来ていただく。つまり、館山においていただいてお金を落とさせていただいて、そのお金を市内で循環させよう。そうすることによって、経済循環の良好なものが保てるのではないかと。それが重要であると、そう考えているところです。

それをするにはやはり、館山市が今持っている潜在能力とは何か、特性は何かということになります。一つ目は、首都圏にありながら、海・山などに手つかずのすばらしい豊かな自然があるということです。それから館山市は、海上交通の要衝にある。つまり、太平洋から東京湾に入る玄関口に位置する。そして 31.5km に及ぶ、多種多様な海岸線を持っている。砂浜あり、岸壁あり、いろいろなすべての海洋レジャーといえますか、それに適応できる海岸線を持っている。また三つ目には、東京湾アクアラインや館山自動車道の開通によって、東京、また都心から、時間的な距離がとて短くなりました。都心から館山

まで、約 90 分でアクセスできます。すいていけば館山から羽田まで、だいたい 50 分で行くことができます。そのように、時間的距離が非常に短くなった。この三つのポイントがあります。

スライド 4 ページは、館山湾と館山の市街地の写真です。ご覧のように、半円状でとてもきれいな形の湾です。この湾は非常に波が穏やかで、別名、鏡ヶ浦と呼んでいます。鏡のように波静かであるということ、館山のちょうど真ん中辺に富士山が見えるということで、景色的にとっても日本人の心を揺さぶることがありまして、そんなことから鏡ヶ浦と呼ばれています。天然の良港でございます。

また海底には、皆さんご存じですかね、海草ですが、アマモが多く生息している。アマモがあるということは、小魚たちがアマモに卵を産むのです。そういう意味から海棲生物にとって、とても良好な環境が保てる。魚の種類も多いし、とても豊かである。

さらには、この館山湾を越えた先になりますが、沖に太平洋の黒潮と親潮がぶつかり合う場所があります。つまり、北のほうから親潮が流れてきて、南のほうから黒潮が流れてくる。どちらかという、親潮のほうが栄養分があって魚が多いのですが、黒潮の関係の魚も捕れるし、親潮関係の魚も捕れて、多様な魚が捕れる。ですから、豊かな漁場が大変発展したということです。

次に、現在の館山市の状況についてお話をさせていただきたいと思います。戦後、人口に関しては 6 万人弱いたのですが、現在は 5 万人弱、要するに減少傾向にあります。また少子高齢化が進んでいます。高齢化率が 30% になっています。大きな企業がありませんので、市内での雇用が難しい。これが人口流出や人口減少に拍車をかける状態になっている。

この一方で、高齢化によって非労働世代が増加している。医療・福祉部門の経費負担が年々重くなっていることがあります。そしてまた、大型店が進出してきて、昔からあった地元の商店街は元気がなくなっている。どこでもあることですが、そういう問題を抱えているところです。

この状況をどうしたら打開できるのだろうかということ、今考えているなか、街の元気を取り戻す、またその街の経済を活性化することが大事だと。そのためには先ほどお話ししましたように、外から人に来ていただく。お客さんに来ていただいて、お金を落とさせていただいて、それでこの町の中にその金を循環させることが必要だ。つまり外貨の獲得になります。

それにはどうしたらいいかなということですが、やはり館山市に来ていただくには館山

市の魅力をアップしなければいけない。また、PR をしていかなければいけない。そして大きな柱として観光を取り上げていこうということで、今取り組んでいるところです。

そのポテンシャルは何かということですが、一番はやはり海であると考えています。最大の魅力である海を、また美しい環境を保っている海を、最大限に活用していくこと。多様な施策を講じて観光客など多くの来訪者を増やして、経済の活性化をしていこうと取り組んでいます。また、そうやって来ていただいた方に、「館山っていいな」と気に入っていただけたら、そこに移住していただくことも視野に入れていきますし、定住していただければいいなど、さらに思っています。

このために館山市では国や千葉県にお願いしまして、平成 14 年 3 月に館山港港湾振興ビジョンを策定し、海辺のまちづくり・みなとまちづくりへの取り組みを着手したところですが、このビジョンの策定にあたりまして、策定委員会の委員長として近藤健雄教授に大変お世話になりました。近藤先生、いろいろありがとうございました。

それでは、港湾振興ビジョンの概要に少し触れさせていただきます。館山の魅力をどう図っていくかということになります。このプランは六つあります。

一つ目が、定期旅客船の就航になります。高速道路の整備が整った陸路に加えて、海路からもお客様を呼ぼうという試みです。これにつきましては後ほど詳しくお話をさせていただきますが、現在、館山では早春の 2 月、3 月を中心とした季節運航で、ジェット船「セブンアイランド」が就航するようになりました。

二つ目が湾内遊覧船の就航です。港町館山を目指しているわけですから、湾内遊覧船が欲しい。そういうところなんです。これにつきましても現在、市内西崎地区で運航している水中観光船、船底がガラスボートになっていて海底が観察できるものですが、この船もまもなく館山夕日栈橋を拠点に運航を開始する予定になっております。

三つ目がクルーズ船の就航です。日本を代表するクルーズ船「飛鳥Ⅱ」や「にっぽん丸」「ばしふいっくびいなす」「ふじ丸」ですが、これまでの積極的なポートセールスによりまして、すべての船がすでに館山湾に入港しています。

特に「にっぽん丸」は、毎年恒例 8 月 8 日に開催する館山湾花火大会のときに、横浜の大栈橋からワンナイトクルーズで 500 人のお客様を館山に連れてきていただいています。ちょうど今年、記念の 10 回を数えました。船会社によると、このクルーズは大変人気がありまして、販売を開始すると 1 カ月ほどですぐ満席になってしまうということです。皆さんもぜひ参加してみたいかと思いますが、

次に四つ目ですが、その他の多様な船舶の一時寄港ということをしています。たとえば、自衛隊艦船または海上保安庁船など、官公庁船や民間の多様な船舶などが寄港をしています。

五つ目になりますが、交通・情報・交流拠点の整備です。陸路からのお客様に併せて海路からのお客様にも館山市の情報を発信でき、そこを拠点とした市内各所の観光スポットをめぐっていただくという取り組みです。

そして六つ目ですが、海の体験観光拠点の整備です。館山市では海の体験観光として、館山湾に多く生息するウミホタルの観察会や、貝殻などを拾いながら、オゾンたくさんの海辺を歩くビーチコミングなど、海の体験観光が盛んに行われています。先ほどの交通・情報・交流拠点とともに、これらの海の体験観光の拠点となる施設を整備するという位置づけです。

次に、2 番目のプラン、海洋レクリエーション振興に貢献する海辺のまちづくりプランです。その一つ目がプレジャーボートの寄港。そして二つ目がマリンスポーツの振興です。

それでは、それらのプランを実現させるには何が必要かということです。多様な船舶を誘致しようとするのですから、まずは係留施設となる栈橋が必要となります。これまでの館山港はどちらかというと物流港、それも砂、砂利などの輸出入が中心でした。観光ではなかったということです。

そこで観光振興ビジョンで港を活用した観光振興に係るプランを位置づけたのですが、船舶の誘致には栈橋が必要であることを、港湾管理者である千葉県や国に陳情しました。いろいろと紆余曲折はありましたが、平成 22 年にできたのが館山夕日栈橋です。

しかし、栈橋ができただけでは不十分です。栈橋を生かすための施設等、お客様に気持ちよく栈橋を使っていただくためには、栈橋のターミナル機能が必要ですよ。作りました。海辺の交流拠点「渚の駅」たてやま。栈橋と交流拠点施設という二つのハードプランを実現させました。

また、ソフトプランとしてはポートセールス、ポートサービス、観光、交通情報等の提供、交通手段の確保、特産品、食事等の提供、マリンスポーツ大会の開催などなど、どれも館山市の振興のために必要なプランです。これらを一步一步実現していこうと現在も継続して取り組んでいるところです。

そして、できました。館山夕日栈橋。平成 22 年 4 月 25 日。スライド 9 ページの写真のようにテープカットにこぎ着けました。栈橋の先端にはにっぽん丸が着岸し、栈橋の完成を祝ってくれました。真ん中で森田健作千葉県知事もテープカットをしてくれました。港

湾管理者でもありますから、当然といえば当然ですけども。やはり森田知事はハンサムですし、さすが青春の巨匠ですね。年は私とあまり変わらないのですが。

スライド 10 ページが栈橋の竣工式当日の写真。ヘリコプターで撮っていただきました。ご覧のとおり栈橋の袂の海岸通りから先端までの延長は 500m に及びます。こういう形の栈橋形式としては日本一長い栈橋になります。先端に接岸しているのがにつぼん丸です。天候にも大変恵まれて、栈橋の完成を祝うがごとく、快晴の 1 日になりました。

スライド 11 ページは、夕暮れ時の栈橋ですね。奥に富士山が見えます。これを見るとそう大きく見えませんが、実際に見ると大変大きく見えます。夏の夕暮れ 때에는、カップルの姿が大変多く見受けられます。館山のデートのメッカとなっています。

スライド 12 ページは、栈橋先端の水深 7.5m の岸壁でにつぼん丸のお客様をお迎えしているところです。黄色とピンクの衣装を身にまとったおもてなしの心でお客様をお迎えしているのが、うちの誇る「たてやま・ポートシスターズ」。シスターでなくて、シスターズが特徴なんです。一人ではないということです。これは初代のポートシスターズです。ポピーちゃん。黄色いほうがポピーちゃん。いちごちゃん。この双子の姉妹なんです。現在は 2 代目となっていますが、初代と同じく館山市の観光振興のために頑張ってくれています。

こういうふうになると 2 代目も見たいですね。今日、実は映像で映しません。ぜひ館山に来ていただいて、会っていただきたいと思います。どうしても見たいという方は、ホームページに載っていますので、見ていただきたいと思います。また、ぜひ館山に会いに来ていただきたいと思います。

ポートシスターズの間には、館山在住で館山ふるさと大使のさかなクンの顔も見えます。さかなクンは今だいぶ売れていまして、自宅が館山にありますので、よく帰ってはいるのですが、なかなかイベントでお願いするのは難しくなっています。売れっ子になると、なかなか難しいんですね。

スライド 13 ページ写真は、館山夕日栈橋の中間にあるんです。水深 3m の物揚場に設置したモニュメント、これはブルーフレームといいます。夕日栈橋を訪れていただいたお客様の絶好の写真スポットとして人気があります。ブルーフレームというのは、日本語だと青い炎という意味になります。館山に多く生息するウミホタルが放つ幻想的な青い光からネーミングをいたしました。

キャッチフレーズは「うまれる」です。愛がうまれるというコンセプトを持っています。三つ意味があるのですが、一つ目の意味は、うまれるが「生」という字、愛が「生まれる」、

愛が生けると書きます。これはブルーフレームの青い炎と夕日の赤い炎が交差するときに、カップルでこのブルーフレームに触れると、永遠の愛が約束されるというものなんです。最近、離婚が増えていますから、ぜひこういう形を取っていただいて、そういうのを解消したいなと思っておりますが。

二つ目は、出産の「産」という字を書いた「産まれる」。それで、愛が産まれる。これは、ブルーフレームが夜間、青白く発光しているときに、夫婦で子宝祈願、安産祈願をすると、子宝に恵まれ、安産が叶うというものです。ぜひ多くの方にここに触れていただいて、安産を祈願していただいて少子化を解消したいと思っております。

少し余分なことになりますが、安産は叶うんですよ。千葉県で出生率がいちばん高い市は館山市なんです。1.61。やはりこの影響もあるんですね(笑)。おかげでうちの職員が今、産休が多くなりまして少し困っているところもあります。

三つ目は、「熟」という字を書いて愛が「熟まれる」。先ほどお話ししたように富士山が見えるんです。富士山が鏡ヶ浦の向こうに見えるときにブルーフレームに触れると、夫婦の揺るがぬ絆が約束されるというものなんです。これは、皆さんはまだ独身だからわからないでしょうけれども、我々にとっては切実な問題。これはぜひ、ある程度お年を召した人に触れていただきたいなと。

私はこのスポットを、恋人や夫婦、カップルの聖地として売り込んでいます。ぜひ皆さんも、先生は奥様ご同伴で、また彼女とか彼氏と、ぜひ来ていただきたいと思っております。

スライド 14 ページ写真は、館山のシンボルの館山城があるのですが、館山城から見た栈橋につぼん丸です。館山城が、このすぐそばにあるのですが、城から海が見える城は、日本にもなかなかありません。私が聞いているのは 2 カ所です。そのなかの一つだということで、館山城にもいらっしやっただきたいと思います。

館山城は、戦国時代に館山をはじめとした房総半島を治めた里見氏の居城跡です。里見氏は何で力を持ったか。たしかに戦が強かったのもあるでしょうけれども、海路が非常に重要だったわけです。太平洋から東京湾に入るその入口にありますので、ここを押さえれば、大変力があつたわけです。江戸幕府としてみれば、ここを押さえられてしまうと困ってしまうという危機感もあつたわけです。最終的にはここを改易させて、取りつぶしてしまうという憂き目に遭ったわけです。

その里見氏を題材にしてできたのが、滝沢馬琴の、正式には曲亭馬琴といますが、『南

総里見八犬伝』です。館山城の中には、里見八犬伝にまつわる資料が豊富にそろっています。日本一の里見八犬伝博物館です。皆さんも館山においでの際は、館山城においでいただいて八犬伝博物館をご覧になっていただきたい。

また、八犬伝にまつわるゆかりの場所もたくさんあります。八犬伝では八つの玉が有名です。仁義礼智忠信孝悌の八つの数珠を授かったという養老寺などもあります。今、館山のマスコットに「ダッペエ」というキャラクターがあるのですが、ダッペエが八つの玉を首に首輪としてつけています。そんな形で『南総里見八犬伝』も、一つ大きなテーマとして売り出していく。また里見氏の歴史も売り出していくということで考えています。館山城の天守閣から見る棧橋は、館山を代表する景観です。

スライド 15 ページ写真は、早春の 2 月、3 月を中心に季節運航をしているジェット船。「セブンアイランド」といいます。東京の竹芝棧橋から館山夕日棧橋に寄港して、そこから大島や伊豆下田などに行くことができます。年々利用客が増えています。竹芝から館山まで 75 分、館山から大島までは 55 分で行くことができます。つまり、竹芝から館山、東京湾を通るほうが時間がかかるんです。館山から大島までは 55 分で近いんです。ですから、館山から大島がすごく近く見えるんです。皆さんもぜひ季節運航を利用していただければありがたいと思います。

また、今考えているのは、千葉港と館山港を結ぼうという話や、ディズニーランド、浦安と館山を結ぼうではないかという話も少しずつ水面下で動いているところです。

スライド 16 ページ写真は、毎年 8 月 8 日、館山湾の花火大会に訪れたにつぼん丸の満艦飾の模様なんです。先ほどお話ししましたように、8 月 8 日、花火大会。これは決まっています。館山湾花火大会は日にちが決まっているんです。そこに毎年、につぼん丸に来ていただいているということです。につぼん丸が花火大会をお祝いして、満艦飾で花火を打ち上げ、開始を待っているという情景です。

につぼん丸は、500 人の乗客の方をお乗せして館山夕日棧橋に着岸するわけですが、そこで半日の市内観光をしていただいて、そして夕刻、船が今度は沖に出て洋上から花火を楽しまれる。とても素晴らしいという評判です。

私も一回は乗ってみたいと毎年思っているんです。ところが花火を打ち上げるほうですから、打ち上げるほうは陸になければいけないので、海上にいるわけにいかないの、なかなかそれがかなわない。非常に残念に思っています。

スライド 17 ページ写真で、黒く写っているのがにつぼん丸なんです。いかに花火が大

きいかがわかります。につぼん丸の間近で爆発しているのが、水中花火と言います。径 250m 以上になります。これが非常に迫力があってすばらしい。花火は 1 万発になります。千葉県でも有数の花火大会になります。なかでもこの水中花火がいちばんのおすすめです。私はいつも陸にいますが。陸にいても、この爆発音のズシンという音が腹に響きますから大変迫力がああります。

につぼん丸など、船でご覧になっているお客様の話をお聞きしますと、すごい迫力だと。船がひっくり返るのではないかという感じもするというのも伺っていますし、ほかの船でご覧になっている方も今増えてきていまして、ワンナイトクルーズはおすすめでございます。ぜひ体験していただきたいなと思います。

この館山の花火でいちばんのおすすめは、先ほどお話ししました水中花火ですが、特徴は何かと申しますと、空に上がる花火は当たり前ですが、三界を貫いた花火が館山の特徴なんです。空に大きな花火が上がります。いろいろな花火が上がります。それでもう一つは水面に花火が上がる。これは水中花火です。

もう一つあるんですね。陸上に花火が上がるんです。これはフラメンコの花火というのがあるんです。全国のフラメンコ学生連盟の大学生たちが、女学生が主ですけども、舞台上で花火をバックにしてフラメンコを踊るんです。これがとてもきれいなんです。少し暗いと悪いところは全く見えませんから、きれいなところしか見えない(笑)。これも非常に人気が高くなっています。

スライド 18 ページ写真も、打ち上げ花火と水中花火です。とてもきれいでしょ？

スライド 19 ページ写真は水中花火です。これはどこがすごいかというと、径がだいたい 300m、どこから見てもこの形に見える。なぜかといいますと球状なんですね。もともとは球なんです。それが半分水面になってしまうので、水上に半分出るわけです。お椀なんですね。ですから、どこの位置から見ても、このように見える。そこがすばらしいところです。これを見ていると、自分のところへ飛んでくるような気がするんです。それだけの迫力がああります。本当にこの花火は人気があります。

水中花火はいつもその位置ではないんですね。つねに移動して打ち上げますから、館山湾の中をずっと船を移動しながら上げるので、自分のところから遠かったなと思うと、だんだん近くなりますから。それで遠ざかっていくような形になりますので、非常にいい体験をすることができます。

棧橋ができましたが、もう一つのハードプランとして、交流拠点の整備が必要。もとも

と館山夕日栈橋の袂には、海洋民族をテーマとした県立安房博物館がありました。県からこの博物館をもらってほしいというお話があったんです。ちょうど私たちが栈橋の計画を練っていて、栈橋だけではだめだな、何か交流拠点が欲しいなと思っていたところなので、お互いの思惑が合致したということで、ここに博物館をもらって、その施設をリニューアルして栈橋のターミナル機能と博物館、ミニ水族館の海辺の広場、展望デッキなどを整備しまして、2012年3月25日にオープンしたところなんです。

スライド 20 ページ写真でまたテープカットをしています。ここが展望デッキです。これもいろいろな形で組み合わせていくことによって相乗効果を高めようというところなんです。

まだ、今現在足りないところがあります。それがレストランなんです。やはり、いらっしゃった人が飲んだり食べたりできなければいけない。それを今、計画中です。多くのお客様からも、ここにレストランがあったらいいなということもお聞きしています。海を見ながら、このロケーションを見ながら食事ができるレストランを今、計画しているところなんです。特に夕日の景観はすばらしいですから。今年度中に設計を終えまして、来年度のできるだけ早い時期にオープンする予定になっています。

スライド 21 ページ写真は、渚の駅の展望デッキです。このように館山湾を間近に見られて、食事もできるように。後ろのほうに館山城が見えるということになります。景観にとっても恵まれているということです。

スライド 22 ページ写真は、渚の駅の本館にあるミュージアムショップ。「KIRA たて山」です。ここで、館山や房州の地元のお土産などを買うことができます。大変込んでいますね。

スライド 23 ページ写真は、海洋民族をテーマとした渚の博物館です。ここに写っているのは万祝（まいわい）といいます。万祝というのは、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、網元が大漁のときに漁師に送る晴れ着です。つまりここの特徴は、博物館を持った渚の駅、交流拠点。それが売りになっています。

スライド 24 ページ写真はミニ水族館、海辺の広場です。館山湾の豊かな海を水槽で再現しています。このなかにいる魚はすべて館山湾にいる生物を展示しているということです。この写真は、えさやりタイムというのがありまして、毎日午後2時半に、子どもたちが直接、魚のえさやりを体験できる。非常に人気になっています。

スライド 25 ページ写真は展望デッキからの夕景です。とても素敵ですが、もっと素敵なのがあるね。

和田 魚眼レンズのを持ってきました。

金丸 とても素敵なんです。これは私の自慢なんです。私が若ければ、すでにここはデートスポットですね（笑）。ぜひ来ていただきたいと思います。愛がうまれる、愛がはぐくまれるということもございます。

次に、レクリエーションとスポーツ観光の振興について取り組んでおります。館山市では海や港を活用して、ご覧のようにさまざまなレクリエーション、スポーツ観光の振興に取り組んでいます。この取り組みによりまして、館山市を知ってもらおう。またスポーツ合宿などをはじめとして館山への来訪者の増加につなげることが、観光振興の観点からとても大事であると考えているところです。

スライド 27 ページの写真は、毎年6月に開催している「OCEAN+FEST TATEYAMA（オーシャンフェスタ館山）」の様子です。このオーシャンフェスタ館山は、毎年、海の海水浴場開設期間中にライフガードをお願いしている TATEYAMA SURF CLUB が中心となって開催しています。館山の海、夏のシーズンの開幕を告げるイベントです。TATEYAMA SURF CLUB は、館山スポーツ大使をお願いしているプロライフセーバーでタレントである飯沼誠司さんがリーダーを務めるクラブで、ライフセービングの全国大会などで好成績を収めています。

飯沼誠司さんの写真はないんだね。

和田 はい、すみません。

金丸 かなりイケメンの男性です。

オーシャンフェスタ館山では、ご覧のようなビーチフラッグスや綱引きなど、家族連れで楽しめる多様なメニューが自慢のイベントとなっています。

スライド 28 ページの写真は、毎年7月に開催した「たてやま海まちフェスタ」での、アクセスディンギー乗船体験の様子です。毎年、近藤健雄先生の研究室にお世話になっていまして、大変人気のあるメニューでございます。近藤先生、どうもありがとうございます。

アクセスディンギーのほかにも、地元ヨットクラブの提供で、ヨットのクルージング体験ですとか、海上自衛隊や海上保安庁など多くの団体の協力によりまして、多様な船舶の乗船体験などを海まちフェスタで実施します。海のまち、館山です。市民をはじめご来場いただく方々に海を親しんでいただき、海を好きになっていただく。こういう願いからこのイベントを継続して行っています。

これ(スライド 29 ページ写真)は何だかわかりますか。これはウミホタルといいます。環境が整った館山湾には、ウミホタルがたくさん生息しています。ウミホタルを通して館山の海のすばらしさを来訪者に知っていただくために、館山ウミホタル観察倶楽部という団体が無償でウミホタル観察会を実施しています。この写真のように、子どもさんの手のひらにウミホタルをのせて、ウミホタルのストレスにならない程度の刺激を与えると、このコスモブルーの輝きに子どもたちが大喜びします。この青をコスモブルーと我々と呼んでいます。ウミホタルは甲殻類、ミジンコ的一种です。体の周りが殻に覆われていますので、少し刺激を与えても死なない。大丈夫なんですね。当然、観察会が終わった後にウミホタルを海に戻してあげるようにしています。

アクアラインの海ほたるも、このウミホタルから名づけられたのです。当時、道路公団の公募があったんです。実際に道路公団の人が館山にウミホタルを見に来ました。それでその色、光に魅せられて、このコスモブルーの光に魅せられて名前を決めたということです。

北条海岸エリアというのは館山湾に沿ったエリアですが、スライド 30 ページ写真は、北条海岸エリアを中心としてこの 4 月に開催されたトライアスロンのアジア選手権、ロンドンオリンピックのアジア地区代表選考会の模様なんです。アジア各国から選手団、スタッフ等、3000 名もの人々が集いまして、ロンドンオリンピックの代表をかけ熱い戦いが繰り広げられました。25 カ国の人たちが見えて、20 カ国の選手が出ました。

ここで優勝した選手がアジア大陸の代表としてロンドンオリンピックに出場しました。このなかでは細田雄一選手、上田藍選手、足立選手などがいます。日本が総なめした大会だったのですが。

また、トライアスロンについては、毎年 7 月に館山わかしおトライアスロン大会が、館山湾で繰り広げられています。年々出場者が多くなっている状態です。館山湾は別名鏡ヶ浦と呼ばれるような静かな穏やかな海ですので、トライアスロンやオープンウォータースイムレースに大変適しています。アジア選手権大会では、トライアスロンのバイクやランも海岸通りで行われました。ランに至りましては、館山夕日栈橋もコースの一部になった。まさに海の祭典です。

スライド 31 ページ写真は、毎年 7 月に行われるオープンウォータースイムレース、ジャパンオープンです。つまり、全日本の冠がついている試合です。館山のサーフクラブも、安全管理のためにご覧のように活躍しています。黄色い、サーフボードに乗っているのが

サーフクラブのメンバーです。

スライド 32 ページの写真は、毎年 8 月に行われるサンセットウォーキングの模様です。サンセットウォーキングは文字通り、美しい館山の夕景を望み、館山夕日栈橋から沖ノ島までを往復するウォーキングイベントです。館山湾は「日本の夕陽百選」や「関東の富士見百景」「東京湾 100 選」など、さまざまなイベント 100 にランキングされています。館山の夕日を見ながらのウォーキングは、市民をはじめさまざまな方から大変支持を受けているものです。

スライド 33 ページ写真は、ビーチバレーボールの様子です。このコートは市の職員が手づくりで 4 面整備しています。この取り組みで非常に感じるのは、リピーターが多いということです。東京や埼玉方面から毎年通ってくるグループがいます。館山サポーターになっていただいています。

今年 9 月には、成績はよくなかったのですが、ロンドンオリンピックに出場した朝日健太郎選手を招いてビーチバレーボール大会を開催しました。「SPORTS BEACH 館山」というイベントです。優勝チームの特典は、朝日ペアと 2 人対 4 人で試合ができるということです。さすがにオリンピック選手も 4 人相手にはかなわない。そんなことを言っていました。それにしても、朝日健太郎選手は大きいですね。非常に背が高い。2m なんですか。ネットの高さが低いと言ったとか言わなかったとかお聞きしましたがけれども、とにかく身長があります。

あと「SPORTS BEACH 館山」はビーチサッカーの大会も行われています。この大会の特徴は地元よりも県北の他県から参加チームが非常に多いということです。宿泊も含めて、館山市の活性化に貢献してくれています。

スライド 36 ページの写真は、沖ノ島というところです。沖ノ島というのは砂州で陸地とつながった無人島です。館山湾にありますが、その周辺で盛んに行われているシュノーケリングの様子です。NPO の方々が指導者として親切に指導してくれますので、初めての方でも安全にシュノーケリングを楽しむことができます。

館山湾は造礁性サンゴ生息の北限域とされています。また、クマノミやツノダシなど、熱帯性の魚などをこのシュノーケリングで見ることができます。今、だいぶ熱帯魚に近い魚が増えてきています。色鮮やかな魚が増えていきます。

スライド 37 ページ写真は、毎年冬、1 月に行われる館山湾寒中水泳大会の模様です。伝統の寒中水泳大会も今度の 1 月で 66 回目を迎えます。私も毎年参加をさせていただいて

いますが、これで正月だなという感じになります。正月もなかなか休めないものですから、これがあると「ああ、正月だ」と、身を引き締めて今年もやろうという気になります。ぜひこれも、我はと思う方は参加してみてください。非常に寒いといっても、そう寒くありません。ただ、海水に入っているところと外に出ているところの境目が寒い、冷たいんですね。

また、寒中水泳は土曜日にあるのですが、1週間後の日曜日、館山若潮マラソンというのを毎年行っています。2012年初めて参加者1万人を突破いたしました。2013年1月も非常に好調に滑り出していますので、1万人を突破できるだろうということで大変盛り上がっています。解説者が第一人者の金哲彦さん。この方にいろいろアドバイスしていただいたり、前夜祭にはいろいろなお話をさせていただきます。そういうことで、今盛り上がっているところでございます。

スライド38ページ写真が、お話しした館山若潮マラソンです。この1月で33回目を迎えます。2013年は1月27日が開催日となります。コースは館山自慢の31.5kmの海岸線をほぼ完走する形なんです。そのコースには菜の花が咲いています。菜の花は、館山市では12月から咲きますので、ちょうど咲き始めて、いいころです。潮風を全身に浴びながらのマラソンということで、とても評判がいいです。また、10kmや、ファミリー向けの2kmコースも設置しています。そんなことから、今年は1万人を突破したということです。多くの皆さんに楽しく走っていただきたいということで開催しています。足に自信のある方はぜひ参加してみてください。

館山の海、港を活用したさまざまなイベントを紹介させていただきました。館山の恵まれた自然、海を活用したスポーツ観光の推進につきましては、館山の最大のアピールポイントであります。これからもますます力を注いでいきたいと考えております。

ここで、観光の現況、今現在どうなっているかに触れさせていただきます。平成18年に約164万人でした。平成21年は178万人まで伸びてきたんです。いい調子だったんです。館山ですが、調子（銚子）はよかった（笑）。

ところが、ご案内のように平成23年、3.11の東日本大震災がありまして、これは館山市だけではなくて関東各地で観光客の減少が続いたわけですが、館山もがくんと落ちました。特に海に関しては風評被害がありまして、かなり厳しい状態になりました。それで平成23年には154万人まで落ち込んだということです。

2012年の夏は、海水浴客はじめ、いくぶん持ち直してきました。やはり風評被害は大変

厳しかったです。観光業者、飲食業者を中心として大きな打撃となりました。特に困ったのは計画停電でした。計画停電がいつ行われるかわからないということで、宿泊の予約も取れないし、食堂も開けられないしということで大変な打撃を受けました。現在はこの打撃を払拭すべく、陸路、海路のお客様の誘致に積極的に取り組んでいるところです。

これは笑い話にもなってしまいますが、実は先ほど、トライアスロンのアジア選手権大会を館山でやりましたというお話をさせていただきました。それを決めるときに、アジアの選手権大会の理事会がありますが、そこに行って、この館山で次回20回記念大会を誘致したい、ぜひお願いしたいというお話をしたときが平成23年6月だったんです。

いちばん厳しかったときなんです。なぜかと申しますと、3月11日に東日本大震災があったんです。それで、放射能事故があった。大変な放射能というのが、世界に流れていたときです。ですから、その理事の方たちに日本の国は大丈夫なのか、みんな汚染されているのではないのと、まず言われたのです。それから、福島はどこにあるの、館山はどこにあるのということで、位置関係を言われた。

ここからがおもしろいのですが、やはりアジアも入った日本地図を見せませうでしょう。そうすると、どうしても北が上になりますよね。福島があつて、館山が離れているのがわかるのですが、アジアの理事の方たちはどう思うかということ、福島から館山に海水が流れてきているんだろうと見るんですね。ところが実際は、その時期は黒潮が上へいつていまして、強いですから、北から下に下りていないんです。沖にいつていまして。ただ、理事の方たちは放射能の汚染があるだろう、その影響があるだろうというようなお話で、それを一から、海流がこうなっていますというお話からさせていただいたんです。

理事会に行って私も拙い英語で話をしたのですが、聞くというよりも非難ごうごうの目線でしたね。何で今さら日本でやるのかということ、また国を代表する選手たちを、そういう危ないところへ送れないということで、何日かいるわけですから食べ物は大丈夫なのかということとか、汚染された海で泳がせることはできないとか、いろいろな質問を受けました。それを一つひとついねいに日本の役員の方たちと説明をさせていただいて、それでもほとんど無理だなという感じでした。

私は、何とか皆さん助けてくれと。皆さんからたくさんの義援金をいただいている。それで今、我々は皆さんに感謝しているんだ。けれども、もう一つ館山でこのアジア選手権大会をやるということは、これは館山だけでなく日本全体を元気にしてくれる。何とかその光を皆さんからもらいたいと話したんです。

そのときに、ある一人の理事の方が立ち上がったんですね。そして、「Encourage Japan」と叫んだんです。日本に元気を与えようではないかという意味です。そうしたら一人が二人になり、二人が三人になり、時間はかかったのですが、全員がそう叫んで実現したということなんです。

それで私は感激して、館山は小さいところだし、金が裕福にあるわけではない。しかし心のおもてなしだけは絶対にほかに負けないだけのことはやるというお話をしました。ですから、アジアの選手権大会をやったときには、精一杯の心のおもてなしはさせていただいた。

そして終わったときに、理事の方たちが非常に感激された。選手たちにもよかったと言っていたら、これだけいいところだったらワールドカップを誘致したらいいではないかという話まで出て、今実はワールドカップに手を挙げているんです。そういうふうにおもてなしていただいたのは、やはり市民のおもてなしの気持ちもあったのでしょうけれども、私は海やロケーションが素晴らしいことをわかっていただいたこともあると思うんです。私はそういう宝を、これからもしっかり生かしていきたいと思っています。

スライド 40 ページ写真は洲埼灯台です。東京湾と太平洋を分けるところに灯台が立っていて、洲埼灯台というところなんです。夕日に富士山が見える日には最高にロマンチックなスポットになります。少し道路から離れているところにありますので、ロマンチックなんです。

これも皆さんご存じだと思いますが、AKB48の「会いたかった」という曲があるんだよね。また乃木坂 46の「会いたかったかもしれない」。少し微妙だけれど(笑)。このプロモーションビデオのロケ地は館山なんです。必ず洲埼灯台が出てきます。北条海岸も出てきます。

皆さんも今度カラオケに行ってこれを歌ってみたときに、このロケーションは館山だと。館山だと書いてくれないのですが、館山だということを考えて歌っていただけたらと思います。洲埼灯台、北条海岸、館山の町がたくさん出てきます。

この洲埼灯台は、昔はマーガレットが周りを囲んでいました。マーガレット岬と呼ばれた時期がありました。今、このマーガレット岬プロジェクトということで、一つひとつそういうものをまた取り戻していこうということで取り組んでいるところなんです。

スライド 41 ページ写真は決定的瞬間なんです、よく見えないね。富士山の上に太陽が沈むダイヤモンド富士なんです。そう見えますか。

和田 見えます。

金丸 これがダイヤモンド富士。年に2回見られます。館山湾は半円状になっていますね。だから、位置を変えてみれば何日か見えるんです。見る位置を変えれば、前後3日間ぐらい見えるんです。ただ問題は、富士山が見えなければいけないという、晴れていなければいけないとか、難しいんです。決定的瞬間はとて運のいい人しか見られない。行いのいい人。お金を持っているからといって見られないんです。

ダイヤモンド富士が見られるのは毎年5月、7月。決まっています。富士山が見えるのは、冬がよく見えるんです。ですので、両方というのが非常に難しいんです。まさに自然のダイナミズムなんです。このダイヤモンド富士が見えたら、ラッキーなんです。その年は必ずいいことがあります。ダイヤモンド富士が見えなくても、心の中で見えたと感じればまたいいことがあるんです。

館山に来ると何かいいことがありそうだな、何かいいことがあったな、そういう気持ちにさせるようなまちづくり、そういう観光都市づくりをしたいと考えています。皆さんもぜひ館山においでいただきたいと思います。

館山市は素晴らしい海がもたらしてくれる恩恵の一端、これまでに縷々お話をさせていただきましたが、少しはおわかりいただけたかなと思っています。私はこれからも館山市の持つ最高の資源の海を最大限活用しまして、まちづくりを進めていきたいと思っています。やはり百聞は一見にしかず。一度お越しいただきまして、館山の海の魅力を体感していただければありがたい。そして、館山のサポーターとなってくだされば、こんなにうれしいことはありません。館山でお待ちをしております。

本日はご清聴ありがとうございました。(拍手)

この後の時間は、皆さんと質疑応答や意見交換をする時間とさせていただきたいと思えます。

司会 ありがとうございます。

司会 時間どおりやっただきまして、ありがとうございました。一つ、二つ、もし質問がありましたら、感想でも結構です。

学生 観光に力を入れている政策だとか、費用のかかる栈橋の設置に対する市民や漁業者の意見を教えてください。

金丸 まず、観光に対する考え方ですが、これははっきり申し上げて、今までの館山の弱みは何だったかということ、気候がすごくいいでしょう、だからあまり焦らないんです。

基本的にゆったりしているんです。ですから、観光もそれほどPRしてこなかったし、力を入れてこなかった。また、食べるものも魚介類はいろいろな種類のものが捕れる。野菜もいろいろな種類のものが取れる。だから、これといった名物がないんです。これしかないというものがいないから。何でもあるから。

しかし、では産業は何かといったときに、大きな産業はありませんので、やはりこれからは観光というもので外貨を取り入れていくしかないのご理解いただいて、今まちづくりを進めているのが一つ。

それからもう一つのご質問は、栈橋のでかいのを作ってしまったから、それに対して市民の方たちはどう思うのよということだと思いますが、お金もかかっているしね。確かに市民の中でも意見は分かれるんです。ああいうものは要らなかったのではないかと。

民主党の中で、ハードよりソフトだとあったではないですか。私はハードもソフトも思っているんです。ソフトも大事だけれどもハードも大事だよ。私はその栈橋はハードの大事な一つだと。あれがあるから客船も呼べる。客船を呼んでどうなのという人がいるのだけれども、呼ばないより呼べたほうがいいに決まっているし、呼べるというものが、客船がきてその1隻の経済効果はいくらだというのではなくて、その波及効果があるんです。私が観光に力を入れたいのは、観光というものは裾野がすごく広いから。第1次産業、第2次産業、全部含めた中で観光業ができるから。だから、私は観光の中で6次産業化をねらっている。つまり、たとえば野菜が取れました。そうしたら、その野菜を今度は加工していく、また流通にのせる、みやげものにする、直売する、いろいろなことに広がっていく。そういうことで雇用を増やしていこうと思っています。

私が言いたいのは、ハードもソフトも大事だ。必要だと思ったハードは絶対作らないといけない。それが栈橋であると思っています。

日本は、私は国にいつも言っているのですが、世界6位の海岸線を持っている国が、海に対する予算が少なすぎると話しているんです。

司会 時間がちょうど過ぎましたので。

金丸 もう時間ですか。すみません、私が話しすぎてしまうとね。

司会 いやいや。ちょうどいい時間です。皆さんもたくさん意見や感想があると思いますが、ぜひレポートのほうにまとめていただいて、それをさっそくコピーして金丸市長に送りたいと思います。読んでいただければ。どうもありがとうございました。

もう一度、皆さん、盛大な拍手をお願いします。

金丸 どうもありがとうございました。(拍手)

館山市における海辺のまちづくり

館山市長 金丸謙一

館山市の紹介

- 市制施行 昭和14年11月3日
- 面積 :110.21km²
- 海岸線 :31.5km
- 人口 :50,022人
(平成24年9月11日現在)
- 産業別就業人口

第1次産業	1,777人	7.7%
第2次産業	3,733人	16.3%
第3次産業	17,193人	74.9%



《館山港港湾振興ビジョン》

(1) 観光振興に貢献する海辺のまちづくりプラン

- ① 定期旅客船の就航
- ② 湾内遊覧船の就航
- ③ クルーズ船(不定期船)の就航
- ④ その他多様な船舶の一時寄港
- ⑤ 交通・情報・交流拠点
- ⑥ 海の体験観光拠点

(2) 海洋レクリエーション振興に貢献する海辺のまちづくりプラン

- ① プレジャーボートの寄港
- ② マリンスポーツの振興

《ビジョン実現のためには...》

○《ハードプラン》

- ・係留施設(棧橋)の整備
- ・棧橋のターミナル機能を持った交流拠点施設の整備

○《ソフトプラン》

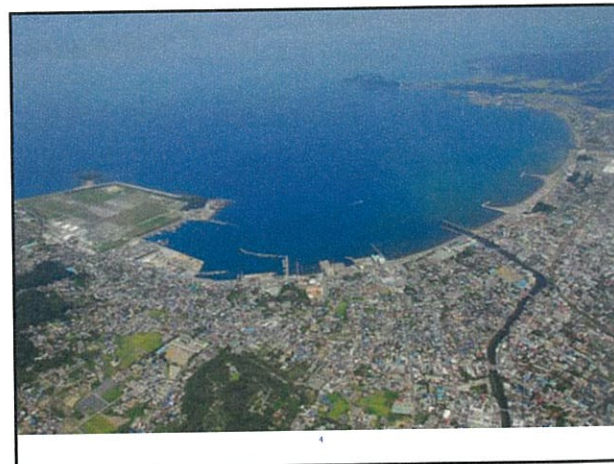
- ・ボートセールスによる、客船等多様な船舶の誘致
- ・ボートサービスの提供
- ・観光・交通情報等の提供
- ・交通手段の確保
- ・特産品・食事等の提供
- ・マリンスポーツ大会の開催

テーマ「海と人間」に係る館山市の取組

◎ 海辺のまちづくり(海辺を活用したまちづくり)による館山市の振興、地域経済の活性化

《館山市の特性》

- 首都圏にありながら、海・山など手つかずの豊かな自然に恵まれている。
- 海上交通の要衝である東京湾の玄関口に位置し、31.5kmに及ぶ海岸線を有している。
- アクアライン、館山自動車道の開通で、都心部から約90分でアクセスできる。



《館山夕日棧橋の整備》

- 港湾管理者である千葉県により、平成19年9月に棧橋の整備工事に着手。
- 平成22年4月25日棧橋竣工。供用開始式典挙行。



《館山市の現状》

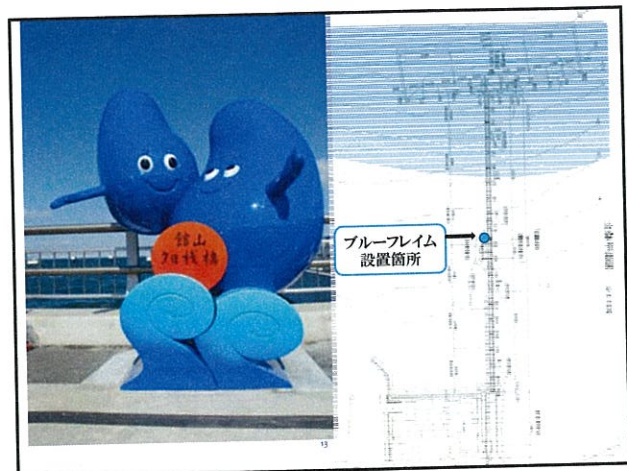
- 全国的に人口の減少が進んでいるが、館山市もこの例外ではない。
- その上、少子高齢化が進んでおり、高齢化率は約30%となっている。
- 雇用の場の確保が難しく、人口流出が人口減少に拍車をかけている。
- 非労働世代の増加で、医療・福祉部門の経費負担が年々重くなっている。
- 人口減少や大型店の進出などにより、商店街の元気がなくなってきた。

《再生に向けた館山市の取組》

- 街の元気を取り戻すには、街の経済の活性化が必須。
- 街経済の活性化のためには、外貨を獲得し経済循環を良くすること。
- 外貨獲得のためには、館山市の魅力アップを図り、積極的にその魅力をPRし、来訪者を増加させること。
- その中で、館山の最大の魅力である、美しく環境の保たれた“海”を最大限活用すること。

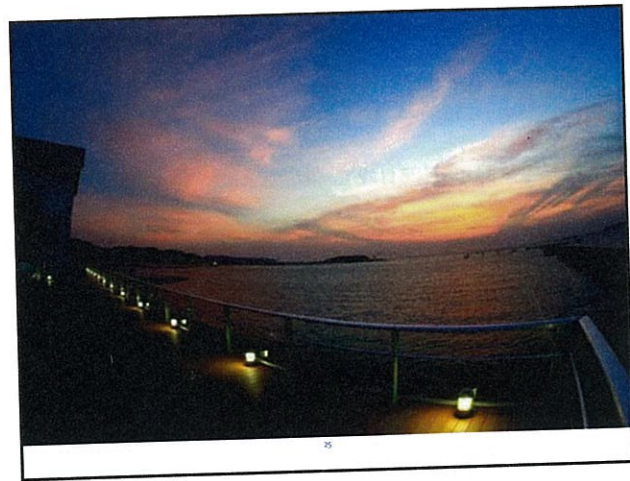
そのため、平成14年3月に「館山港港湾振興ビジョン」を策定し、「海辺のまちづくり」「みなとまちづくり」に積極的に取り組んでいる。





<<館山港交流拠点「渚の駅」たてやまの整備>>
 ○ 館山市が、館山夕日桟橋の袂にあった旧千葉県立安房博物館の移譲を受け、平成21年8月に「渚の駅」たてやまの整備に着手。
 ○ 平成24年3月25日竣工。供用開始式典挙行政。





《レクリエーション&スポーツ観光の振興》

- オーシャンフェスタ館山の開催
- たてやま海まちフェスタの開催
- ウミホテル観察会の開催
- ビーチバレーボールコートの設置
- トライアスロン大会の開催
- オープンウォータースイムレースの開催
- 鏡ヶ浦横断遠泳大会の開催
- サンセットウォーキングの実施
- スポーツビーチ館山の開催
- 館山湾寒中水泳大会の開催



